

# CALSと上下水道への展開

野々山めぐみ\* 宮田 亮\*\*\*  
 嶋岡正浩\* 前田和男\*  
 塩谷景一\*\*

## 要 旨

産業界では、情報通信を活用した効率化への取組が積極的に行われており、公共事業に関しても例外ではない。本稿ではCALS (Continuous Acquisition and Life-cycle Support, Commerce at Light Speed) をキーワードとして、その動向と三菱電機(以下“当社”という。)の取組、上下水道分野への適用と効果について述べる。

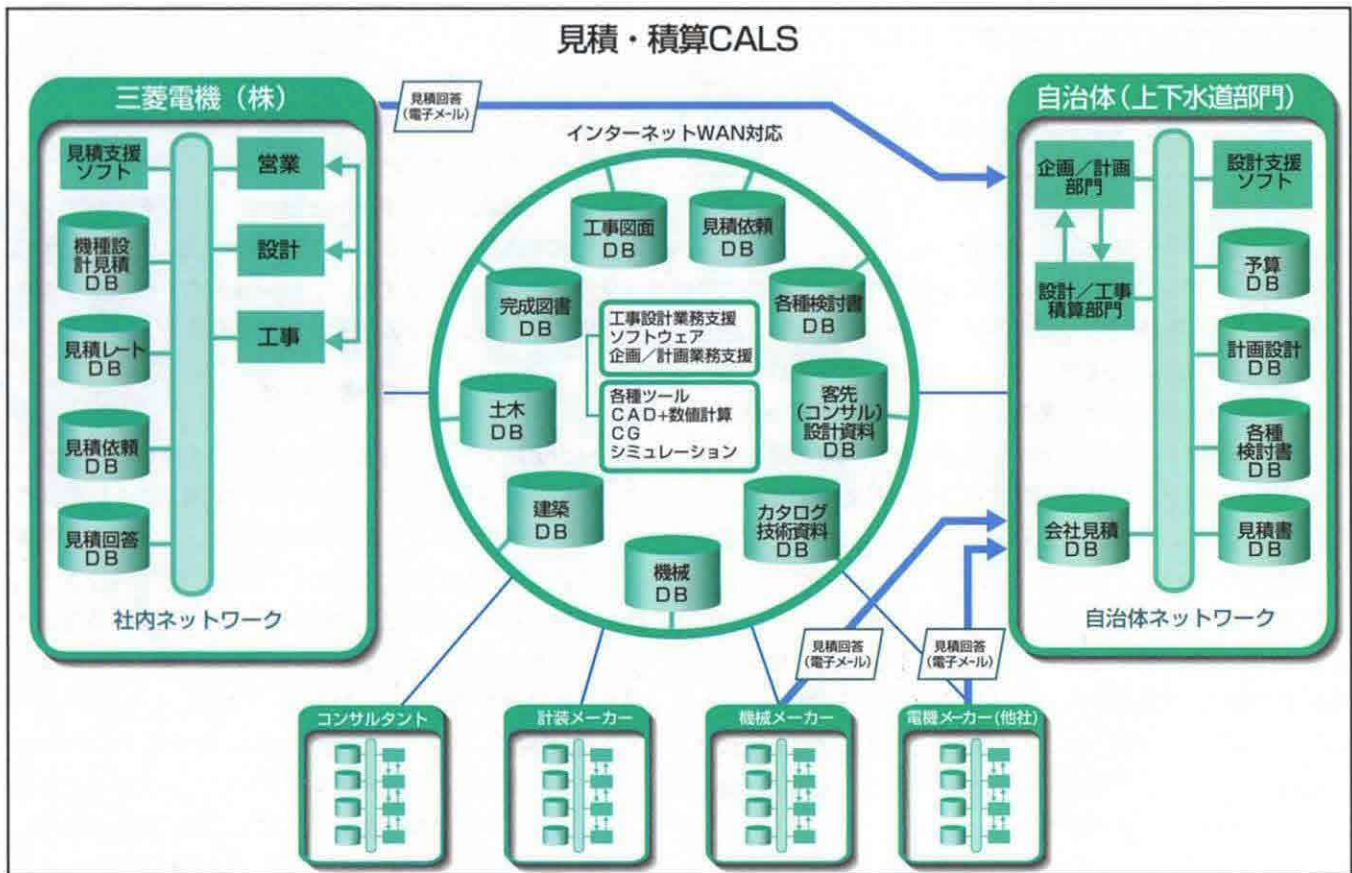
米国国防総省のロジスティクス(後方支援)の電子化・システム化に端を発したCALSは、最近では商務省が中心となり、製造分野における製品や公共分野における設備のライフサイクル支援へとシフトしつつある。

当社では、CALS実現に向けて、設計データの表現と交

換に関する国際標準STEP (Standard for the Exchange of Product Model Data)を技術ベースとした統合設計情報システムの構築に取り組んでいる。

建設CALSについて紹介した後、上下水道分野における計画・発注設計・発注・工事計画設計・工事製作設計・施工・管理をCALSで行った場合、業務がどのように効率化され、省力化されるかについて例を挙げて具体的に説明する。

“データは一度だけ作成し、何度も使う”CALSのコンセプトに基づき、電子化情報の利用による官民の壁を越えたネットワーク上の業務連携について提案する。



## 見積・積算CALS

この図は見積・積算CALSのコンセプトであり、電子メールを使用した見積・入札業務の効率化を図ることができる。